

# 救いの確かさ

「あなたは救われていますか？」と問われたら、確信を持って「はい」と答えることができるでしょうか。この質問は私たちの信仰生活にとって重要な質問です。神様は、あなたがいつも救いの喜びと確信に満たされて歩むことを望んでおられるのです。では私たちは、どのようにしたら救いの確信を持って信仰生活を歩むことができるでしょうか。この課では洗礼の恵みを思い返しながらか、もう一度私たちがいただいた救いについて確認しましょう。

## この課で学ぶこと

### 1. 救いとは何か

- (1) 神様が選んでくださった
- (2) 救われる前の状態
- (3) 救いは行いによらない
- (4) どのようにして救われたか

### 2. 救いの恵みに立ち続けるために

- (1) みことばに立つ
- (2) 悔い改める
- (3) 礼拝と聖餐式を守る
- (4) 御霊の保証によって
- (5) クリスマンとしての経験によって

## 1 救いの確かさ

### ●考えてみましょう

洗礼を受けたときのことを思い出してみましょう。どんな恵みがあつたでしょうか？そのときどんな気持ちでしたか？

### 1. 救いとはなにか

まず神様が与えてくださった救いについて確認しましょう。

#### (1) 神様が選んでくださった

エペソ人への手紙 1 章 4 - 5 節には次のように書かれています。

「すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。神は、みこころの良しとするところにしがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。」

私たちが教会に導かれイエス様を救い主として信じ、信仰を告白して救いを受けた背後には、神様の選びがありました。神様はこの世界を造られる前にキリストにあってあなたを救いに選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとしてくださいました。私たちが神様を信じイエス様を救い主として受け入れる前に、すでに神様の方で私たちを選び、救いに定めていてくださったのです。なんという恵みでしょうか！

#### (2) 救われる前の状態

ところで救われる前の私たちの状態はどのようなものでしょうか。エペソ人への手紙 2 章 1 - 3 節には、「あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者」、「それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んで」おり、「自分の肉の欲のままに生き」ていたと記されています。意識していなかったかもしれませんが、かつ

## 1 救いの確かさ

で私たちは神様の「御怒りを受けるべき」存在だったのです。神様から離れ、霊的に死んでいた者だったのです。

そのように生まれながらにして罪に縛られていた私たちですが、イエス様の十字架が自分の罪のためであることを認めることによって、神様と和解し、神様のさばきから救われました(エペソ 2:16)。罪の支配から解放され、神様に従う者とされたのです(ローマ 6:18)。それによって私たちは神様の子どもとされ(ヨハネ 1:12)、永遠のいのちが与えられ(ヨハネ 3:16)、イエス様と共に天の御国を受け継ぐ者とされました(エペソ 1:11)。

### (3) 救いは行いによらない

神様の選びと救いは、私たちの行いにはよりません。「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです」(ローマ 3:23-24)とあるように、イエス様の贖いによる救いは「価なしに」ただ与えられる恵みで、私たちからは何も払う必要がないのです。「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです」(エペソ 2:8-9)とあるとおりです。私たちは自分の良い行いによって救われたのではなく、ただ恵みによって救われたのです。

### (4) どのようにして救われたか

では私たちは、どのようにして救われたのでしょうか。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」(ローマ 10:9-10)とあるように、心でイエス・キリストを

## 1 救いの確かさ

救い主と信じ、それをことばに出して告白して、救われました。私たちは信じ告白しただけです。神様の恵みによって救われたのです。

## 2. 救いの恵みに立ち続けるために

神様の救いの恵みは確かなものです。しかし、これからの長い信仰生活において、私たちの側では救いの確信が揺らぐこともあるかもしれません。そのような時には、どうしたら救いの確信を取り戻すことができるのでしょうか。

### (1) みことばに立つ

ペテロの手紙第一 1章 23節は次のように言っています。「あなたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。」神の約束のことばは変わることがありません。それゆえ、「御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つ」(ヨハネ 3:16)という神様の約束は決して変わったり、取り消されたりすることはありません。また、キリスト・イエスにある神様の愛があるので、いかなるものも私たちをキリストの愛から引き離すことはできません(ローマ 8:38-39)。

したがって大切なことは、救いの根拠を行いや感情といった自分の内側に見出すのではなく、神様の約束に見出すことです。決して変わらない神様の約束のことばに立ち続けましょう。

### (2) 悔い改める

私たちは、救われた後もなお過去の自分がよみがえり、罪を犯してしまうことがあります。特に何度も同じ罪に陥ってしまうような、変えられていない自分を見ると「自分は本当に救われているのだろうか」と不安になることがあるかもしれません。しかし、救われた後に罪を

## 1 救いの確かさ

犯したからといって、救われていないわけではありません。

ヨハネの手紙第一 1章 9節のことばは救われたあとの私たちも従うべきみことばです。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」罪は私たちを神様から引き離し、救われた恵みを喜べないようにします。もし失敗してしまったなら、ちゅうちょせず悔い改めて神様の前にその罪を告白し、イエス様の十字架による豊かな赦しを受け取って、救いの確かさを味わいましょう。

この神様の約束が救いの確かさの土台となるのです。変わりやすい自分ではなく、決して変わらない神様の約束の上に救いの確信を積み上げていきましょう。

### (3) 礼拝と聖餐式を守る

「彼らはずっと、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。」(使徒の働き 2:42)

救いの恵みを覚え続けるために礼拝を守りましょう。私たちはキリストが復活した日曜日に教会に集まり礼拝をおささげします。礼拝プログラムの一つ一つ、特に説教を通して霊的な養いを受け、救いの確信を新たにします。私たちの救いは天の御国で完成します。その天の御国で私たちを救ってくださったイエス様と顔と顔を合わせてささげる礼拝(1コリント 13:12)を期待しながら、この地上で礼拝をおささげするのです。

また、聖餐式(主の陪餐)も救いの恵みを覚えるために軽んじてはならないものです。イエス様が十字架にかかれる前夜に制定された聖餐式は、主が再び来られる日までこれを守るようにと定められたものです。以来、キリスト教会は約二千年にわたって聖餐式を行っています。私たちは聖餐によって救いを感覚的にとらえることができるので

す。聖餐は、キリストが直接定められた恵みの契約のきよいしるしであり、目に見えない救いの契約を目に見えるかたちで私たちに示し、それを保証するものです。私たちは、定期的に行われる聖餐式を通してパンを食べ、杯を飲むことによって五感を通して救いの恵みが確かであること、永遠のいのちをいただいていることを実感することができます（ヨハネ 6：51-54）。

#### （４）御霊の保証によって

また私たちはイエス・キリストを信じたとき、聖霊をうちにいただいた者です（ヨハネ 14：17）。その聖霊によって私たちには救いの確信が与えられています。ローマ人への手紙 8 章 16 節でパウロは「御霊ご自身が、

私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてください」と言い、聖霊が私たちが神の子どもであることを保証してくださいと教えています。また、私たちが御国を受け継ぐ保証となってくださいなのです（エペソ 1：13-14）。

#### （５）クリスチャンとしての経験によって

「だれでもキリストのうちにいるなら、その人は新しく造られた者



### コラム

#### 礼典とは？

ウェストミンスター小教理問答 問 92 では次のように教えています。

問 92 「礼典とは、何ですか。」

答 「礼典とは、キリストが制定されたきよい規定です。そこでは、キリストと新しい契約の祝福とが、感覚的なしるしによって信者たちに示され、証印され、当てはめられるのです。」

礼典とは、洗礼と聖餐を指します。洗礼は私たちの人生において一度限りの救いのしるし。聖餐は、私たちが主が来られる日まで一生涯にわたって繰り返し行う救いのしるしです。

## 1 救いの確かさ

です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。](Ⅱコリント 5:17)

イエス様を信じた時に与えられた新しいいのちは、私たちの中で働き始めています。その新しいいのちによって、私たちは、神様に喜ばれない罪の性質が変えられて、神様に喜ばれる生活をする事ができるようになっていきます。

クリスチャンとして神様に頼って生きていくときに、私たちはこの新しいいのちの力を経験するようになります。聖書のことばによって励まされたり、力づけられたり、お祈りが神様に聞かれたという体験をしたりと、イエス様を信じるまでは知らなかった神様のいのちの力に触れるようになります。私たちはそのような経験によっても、自分がイエス様を信じて神様の子どもにされたことを知ることができます。

たとえ私たちが揺れ動くときにも、神様の救いは確かなものであり、変わることがありません。イエス様は「**求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです**」(ヨハネ 16:24)と言われました。揺らぐとき、わからなくなったときは、恵みを思い起こせるように神様に祈り求めましょう。必ず神様は私たちに救いの確信と喜びを与えてくださいます。

### まとめ

神様は私たちを選び、救いに定めていてくださいました。神様の救いは確かなものであり、変わることがありません。決して変わらない神様の約束のことばに立ち続けましょう。

Q

話し合ってみましょう

1. あなたは何によって救いを確信することができるでしょうか？
  
2. あなたはどのようにして救いに導かれましたか？ 救われていることを知ったみことばがあれば読んでみましょう。もしなければ、そのことを確認するためのみことばをいただくことができるように祈りましょう。

